

事務事業評価の評価結果について（平成28年度の事業に対する評価）

久居総合支所

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

| 課等名 | 中事業名 | 事業の目的 | 成果指標（平成28年度） | | | | | 事業の評価 | | 所管課長等による評価 | | |
|----------|---------------------|--|--------------|---|----------|----------|---------|--|----|--|-----------------|---|
| | | | 指標名 | 指標設定の考え方 | 目標値 | 実績値 | 数値以外の目標 | 目標に対する実績等の分析 | 評価 | 所見 | 平成29年度以降の事業の方向性 | 所見 |
| 久居・地域振興課 | 地域活性化事業 | 少子化、高齢化が特に進んでいる榊原地域の活性化を図るため、恵まれた自然環境や榊原温泉、伝統芸能、歴史・史跡等を活用し、地域住民が一丸となって交流人口及び定住人口の増加を図る事業を展開する。 本事業は、平成27年度に地方創生加速化交付金の交付決定を受け、榊原未来会議が実施主体となる「伝統芸能と温泉資源を活用した住民活動モデル構築事業」をさします。 | 榊原温泉の年間入込客数 | 交流人口、定住人口の増加を目的としているため、榊原温泉地域の観光入込客数を成果指標とします。 | 350,000人 | 320,210人 | | 目標値には、少し及ばなかったものの、地域住民が一体となった地域振興の基礎をつくることができました。 | 4 | かんこ踊りの保存・伝承、温泉の医学的調査、温泉を利用する人に対するニューツーリズムの開発を実施することなどにより、榊原温泉をPRすることができた。 また、地域住民が一丸となって地域振興に対する活動に取り組むことにより、活動の基礎をつくるとともに、住民の地域振興に対する意識の高揚を図ることができた。 | 拡充・充実 | 平成28年度に榊原未来会議を中心に、地元自治会や榊原温泉振興協会が一丸となって、地域振興策を検討し、かんこ踊りの歌集の作成や、温泉調査、ニューツーリズムの開発などに取り組み、地域住民が一体となって地域振興に取り組む基礎ができたことから、平成29年度以降は、その動きが自立して継続していくよう支援をしていきたい。 |
| 久居・地域振興課 | 地域情報発信事業 | 久居地域の住民を対象として、地域イベント・地域活動団体の活動紹介・地域関連の行政情報など、身近で日常的かつ地域に根ざした情報を提供するため、ひさい地域だよりの発行を行います。 | 地域だよりの発行部数 | 地域情報を提供するための手段の一つであり、「地域だよりの発行部数」を成果指標とする。 | 64,000部 | 64,200部 | | 目的を達成できた。 | 4 | 久居地域住民へ久居地域に特化したイベント情報・地域活動団体の活動紹介・地域関連の行政情報を提供することで、市広報では掲載しきれない地域に密着した情報を提供することができた。 | 拡充・充実 | 発行開始から平成29年度で8年目となるため、これまでに掲載した内容を精査・検討することで、より地域に密着した紙面づくりを工夫していく。 また、地域活動団体を紹介することで、各地域が刺激を受け、地域の自主的な活動の活性化に繋がるよう掲載内容を検討していく。 |
| 久居・地域振興課 | 地域かがやきプログラム事業 中部エリア | 中部エリアでは、温泉や農業など中部エリアの地域資源を磨き上げ、観光資源として活用するとともに、農産物の高付加価値化による地域の活性化、さらに交流を求めての賑わいなど地域力を養うため、「みのり」と「ぬくもり」の郷づくりを目指します。 久居地域では、総合計画で「レクリエーション拠点」として位置づけられた「榊原温泉」、「青山高原」を中心とした地域の活性化に取り組むとともに、当該エリア内の新たな地域資源を掘り起こすための新規事業について検討していきます。 | 榊原温泉年間入込み客数 | 津市総合計画では、中部エリアの中でも榊原温泉を「レクリエーション拠点」と位置づけており、年間を通じた観光客誘致事業、来訪者と地域住民の交流を目的とした地域振興イベントなどにより榊原温泉利用客の増加を目指すことから、上記を成果指標とします。 | 350,000人 | 320,210人 | | 平成28年度から、地元自治会や温泉振興協会などの地元団体などが、地域振興に係る様々な取組を実施しており、入込客数は微減にとどまった。 | 3 | 「湯の瀬フラワーガーデン整備事業」をはじめとする榊原地域での各種事業を通して、豊かな景観形成や来訪者と地域住民の交流を行うことで、温泉リフレッシュゾーンの魅力アップに寄与することができた。 | 拡充・充実 | 中部エリアの将来像である「みのり」と「ぬくもり」の郷づくりを目指し、既存の事業を含め、複数の事業を組み合わせ再編するなど、多面的に考えることで更なる拡充を図るとともに、地域をまたいだエリア内での連携や情報共有の強化が必要である。 |

久居総合支所

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

| 課等名 | 中事業名 | 事業の目的 | 成果指標（平成28年度） | | | | | | 事業の評価 | | 所管課長等による評価 | |
|----------|---------------------|--|--------------------------------|--|---------|---------|---------------------------------|---|-------|---|-----------------|--|
| | | | 指標名 | 指標設定の考え方 | 目標値 | 実績値 | 数値以外の目標 | 目標に対する実績等の分析 | 評価 | 所見 | 平成29年度以降の事業の方向性 | 所見 |
| 久居・地域振興課 | 地域かがやきプログラム事業 東部エリア | 東部エリアでは、市の政治、文化、経済の中心的エリアとして、「知」の情報を様々な機会を通じて発信できる拠点づくりや、市民、企業、大学等高等教育機関との連携による地域を担う人材育成と地域連携による交流のまちづくりを目指します。久居地域では、東部エリアを構成する一地域として、上記エリア目標に沿った、東部エリア各プログラムに位置づけされる事業を実施するとともに新規事業の検討を行いながら、特に地域を担う人づくりや地域連携による交流の促進を目指します。 | 拠点を活かした地域づくりや地域連携による交流の推進 | 久居地域は東部エリアを構成する一地域として、特に拠点を活かした地域づくりや地域連携による交流の推進を目指すことから、上記を成果指標とします。 | | | 主に拠点を活かした地域づくりや地域連携による交流の推進を図る。 | 実施した2事業については、目標値であるイベント来場者を達成できた。 | 4 | 「久居まつり事業」、「サマーフェスティバル」は、レクリエーションを通じた生きがいづくりや久居周辺での賑わい創出に寄与することができた。 | 拡充・充実 | 東部エリアの将来像である「キラリと輝く人づくり・まちづくり」を目指し、既存事業は更に拡充を図るとともに、地域を担うひとづくりの促進が必要である。 |
| 久居・地域振興課 | 公有財産管理事業 | 「副都市核としてふさわしい賑わいある、安心・安全に暮らせるまちづくり」 ・副都市核としての賑わいの創出及び駅周辺の利便性の向上 ・災害時における、安全・安心に暮らせるまちづくりの推進 | 元久居市民会館解体除却工事施工及び久居交流広場詳細設計の実施 | 久居駅周辺地区都市再生整備事業の個別事業として、進捗を図る。 | | | 元久居市民会館解体除却工事施工及び久居交流広場詳細設計の実施 | 元久居市民会館を解体除却するとともに、久居交流広場詳細設計により整備事業費を算定し、翌年度予算に計上した。 | 4 | 元久居市民会館を解体除却するとともに、久居交流広場詳細設計により整備事業費を算定し、翌年度予算に計上した。 | 現状維持 | 久居駅周辺地区都市再生整備事業の個別事業として、進捗を図る。 |
| 久居・地域振興課 | 出張所管理運営事業 | 高齢化率が高い地域であり、地域に密着した窓口業務を目指すとともに、地域コミュニティの拠点として、住みよい地域・環境づくりを推進する。 | 両出張所の窓口における取扱件数と各施設の利用件数の合計数 | 地域の市民サービスの窓口としての施設であるため、両出張所における窓口取扱件数と各施設の利用件数の合計数を指標とします。 | 5,000件 | 5,346件 | | 目標値を上回っており、昨年度ほどではないものの立体駐車場が苦手が久居総合支所から出張所へ回っていると考えます。利用者の方には概ね満足をいただけたと思います。 | 4 | 目標値を達成した要因について、総合支所の移転も大きいですが、マイナンバー申請等の新規の申請窓口として多く活用されているからだと考えられる。金融機関よりも開設時間が長いため、税金等の収納率も高く、榊原農研所、久居農村婦人の家ともに車などの交通手段を持たない高齢者にとって市民生活の利便性を確保する上でなくてはならない施設である。 | 現状維持 | 今後も市民サービスの窓口として、戸籍・住民基本台帳等の交付事務、市税等の収納を行い、市民生活の利便性に供していく。また、榊原農研所・久居農村婦人の家については、貸館業務を通して地域住民との交流を進めることにより、地域振興に寄与していく。 |
| 久居・地域振興課 | 体育館管理運営事業 | スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 | 利用者数 | 市民のレクリエーションの振興及び体力増進を図り、健康で文化的な市民生活に寄与するための施設であるため、利用者数を指標とします。 | 50,000人 | 63,237人 | | 目標値をやや上回りました。利用者が固定してきましたが、新規の利用者を含め、増加したと思われます。 | 3 | 津市スポーツ施設整備基本構想に基づく施設としての施設管理を行う必要がある。また、今年度は利用者が増加したものの、傾向としては、午前・夜間の利用者は多いものの、午後も少なく、利用者も固定している傾向にあるため、当該時間帯の利用者数の増を視野に対応策を検討していく必要があると考える。 | 現状維持 | 平成30年度インターハイ、平成33年度国体の開催に伴い、平成29年度に玄関の自動ドア設置、トイレ等のリニューアルなどの改修工事を実施する。施設全体の老朽化が進んでいるが、定期的な利用者があることから修繕対応を行いながら運営していく。 |
| 久居・地域振興課 | グラウンド管理運営事業 | スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 | 利用回数 | 市民のレクリエーションの振興及び体力増進を図り、健康で文化的な市民生活に寄与するための施設であるため、利用回数を指標とします。 | 300回 | 244回 | | 目標値に対し実績値がやや下回り、所定の目的は達成できませんでした。施設管理者が常駐しておらず、目的外使用や無断使用がみられることから、適切な管理の在り方を検討していく必要があります。 | 3 | 津市スポーツ施設整備基本構想に基づく施設としての施設管理を行う必要がある。利用ニーズもあるため老朽化した施設を修繕を加えながら対応していく必要がある。 | 現状維持 | 利用ニーズもあるため老朽化した施設に修繕を加えながら対応していく。また、隣接する弓道場跡地を駐車場として活用し、利用者の利便性を高めている。 |

久居総合支所

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

| 課等名 | 中事業名 | 事業の目的 | 成果指標（平成28年度） | | | | | 事業の評価 | | 所管課長等による評価 | | |
|----------|----------------|--|--------------|---|----------|----------|---------|--|----|---|-----------------|---|
| | | | 指標名 | 指標設定の考え方 | 目標値 | 実績値 | 数値以外の目標 | 目標に対する実績等の分析 | 評価 | 所見 | 平成29年度以降の事業の方向性 | 所見 |
| 久居・地域振興課 | テニスコート管理運営事業 | スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 | 利用者数 | 市民のレクリエーションの振興及び体力増進を図り、健康で文化的な市民生活に寄与するための施設であるため、利用者数を指標とします。 | 30,000人 | 31,271人 | | 目標値をやや上回る実績値を得ることができ、所定の目的を達成することができました。 | 3 | 施設の老朽化に対応して、平成22年度にコート整備を行ったことにより、利用者数は増加している。 | 現状維持 | 照明等の老朽化が進んでいるうえ、維持管理が容易でない設備となっているため、照明のLED化を含め改修を検討していく。 |
| 久居・地域振興課 | プール管理運営事業 | スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 | 利用者数 | 市民のレクリエーションの振興及び体力増進を図り、健康で文化的な市民生活に寄与するための施設であるため、利用者数を指標とします。 | 30,000人 | 34,857人 | | 実績値は減少とありますが、リニューアル時の無料開放日の利用者数（3,408人）を差し引くと、利用者数は微増と なっています。 | 3 | 施設の性質上、天候により利用者数が大きく変動する。平成26年度営業終了後、大規模改修を実施したため、平成27年度以降においては、利用者数は増加傾向にある。 | 拡充・充実 | 平成26年度営業終了後の大規模改修が奏功し、利用者数は増加傾向にあるが、平成29年度で津市民プールが閉鎖となることから、平成30年度から更なる利用者の増加が予想される。 |
| 久居・地域振興課 | その他運動施設管理運営事業 | スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 | 利用者数 | 市民のレクリエーションの振興及び体力増進を図り、健康で文化的な市民生活に寄与するための施設であるため、利用者数（算定方法を変更）を指標とします。 | 8,000人 | 11,627人 | | 固定的な利用者を中心に、総合型地域スポーツクラブの参加者数、利用日数が増えたため、目標値を超える実績値を得ることができました。 | 3 | 種目の多様化等により、利用者数が減少傾向であったが、固定的な利用者や総合型地域スポーツクラブの利用を中心に今年度はやや増加した。今後、津市スポーツ施設整備基本構想においては、公のスポーツ施設としての用途を廃止し管理方法の見直しが行われることから、これに沿った管理運営を行っていく。 | 現状維持 | 津市スポーツ施設整備基本構想に沿った施設管理を行っていく。平成29年度から久居スポーツ公園内ゲートボール場は、条例改正により運動施設としては廃止となり、他の公園内施設と同様の取扱いとなっている。 |
| 久居・地域振興課 | 久居駅東口駐車場維持管理事業 | 久居駅及びボルタ久居等の利用者に対する利便性を高め、利用者数の増大を図ることによって駅周辺の活性化に繋げるとともに、駅周辺の駐車場需要に対応することにより、円滑な道路交通の確保及び駅周辺の交通安全を図ります。 | 駐車場利用台数 | 車での久居駅利用者に対する利便性を高めることで、駅周辺の駐車場需要に対応し、更に利用者数の増大を図ることで駅周辺の活性化に繋げることを目的とする施設であるため、駐車場を利用した延べ台数を指標とするものです。 | 35,000台 | 68,763台 | | 平成28年6月からの久居駅周辺地区都市再生整備事業に伴う工事により、平成28年度は駐車場台数が177台となり、利用台数が減少した。しかしながら、概ね利用者数と駐車可能台数のバランスがとれ、効率よく利用されたことから、駅周辺における道路の効用保持と円滑な道路交通の確保を図ることができた。 | 4 | 平成28年6月からの久居駅周辺地区都市再生整備事業に伴う工事用地として、通常397台のところ、駐車場台数が177台となり、利用台数が減少した。しかしながら、概ね利用者数と駐車可能台数のバランスがとれ、効率よく利用されたことから、駅周辺における道路の効用保持と円滑な道路交通の確保を図ることができた。 | 現状維持 | 久居駅周辺地区都市再生整備事業に伴う工事により、駐車場台数が減少しており整備完了まで、駐車可能台数が不足するが、適切な維持管理を行い、駅利用者等の利便性を少しでも確保していく。 |
| 久居・地域振興課 | 観光振興事業 | 日本三大名泉の一つである榊原温泉という観光資源を適切かつ有効に活用し、榊原温泉の発展に資するとともに、観光振興及び温泉利用施設の保護を目的として榊原温泉振興協会への補助金の交付を行う。 | 榊原温泉全体の利用客数 | 榊原温泉全体を対象とした事業であることから、榊原温泉全体の利用客数を指標とするものです。 | 350,000人 | 320,210人 | | 平成27年に対し、前年比98.8%と減少しているが、東京、大阪、名古屋などへ積極的なPR活動と、おもてなし館を拠点とした「温泉を核とした地域づくり」や、「蛍灯」「ひな祭り」等のイベント開催により観光事業の低迷するなか、減少幅を最小限にとどめているが、温泉調査を実施し榊原温泉の良さが実証された。 利用客数： 平成28年 320,210人 | 2 | 入込客数、宿泊数を増加させるため、温泉振興協会にて効果ある取組の検証が必要である。本年度実施した、温泉調査で実証された榊原温泉の良さなど、実験結果を活かした新たな取組を行う必要がある。 | 見直し | 榊原温泉の泉質効能のPRを行い、旅館組合、地元自治会、若手グループと連携を取りながら、榊原地域をあげて、観光客誘致宣伝活動事業、観光誘致促進イベント事業及び温泉を核とした地域づくり事業など取組内容を検討し、榊原温泉郷の発展を目指していく。 |

久居総合支所

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

| 課等名 | 中事業名 | 事業の目的 | 成果指標（平成28年度） | | | | | 事業の評価 | | 所管課長等による評価 | | |
|----------|--------------------|---|--------------|--|----------|----------|---------|---|----|--|-----------------|---|
| | | | 指標名 | 指標設定の考え方 | 目標値 | 実績値 | 数値以外の目標 | 目標に対する実績等の分析 | 評価 | 所見 | 平成29年度以降の事業の方向性 | 所見 |
| 久居・地域振興課 | 榊原自然の森温泉保養館維持管理事業 | 日本三名泉のひとつである榊原温泉という観光資源を適切かつ有効に活用し、湯を媒体としたコミュニティの推進とスポーツ・レクリエーション活動を通じた健康増進に取り組むことにより、市民生活の向上及び観光振興を図ります。 | 施設利用者数（のべ人数） | 市民生活の向上と観光振興に寄与するために設置された温泉施設等であることから利用者数（延べ人数）を指標とするものです。 | 190,000人 | 169,141人 | | 榊原温泉全体での入込客が減少する中、老朽化した施設で機械等の故障も多く発生したが、民間へ一部業務を委託したことで、休館することなく、入館者数の減少を最小限に抑えて来た。 | 3 | 平成25年10月1日よりフロント、ボイラー管理及び清掃業務の民間へ一部業務委託を実施したことにより、市民サービス向上と経費削減が図れたものと思われる。しかしながら、施設老朽化により修繕費が増加しており抜本的な対応が必要となっている。 | 見直し | 平成25年10月からフロント業務等主要な業務について、民間業者へ委託して来たことにより、一定効果が得られたが、本年度で契約が満了した。平成29年度については、フロント業務等主要な業務を1年間延長することとしているが、湯の瀬開館から約30年が経過し、経営改善に向け収支等の検証及び施設の改修等に向けた現状調査を行い、今後の施設の在り方を定めていく。 |
| 久居・地域振興課 | 観光施設等維持管理事業 | 榊原温泉への利用客誘致を図るため、榊原周辺地域の自然歩道等の施設の維持管理業務を行う。 | 榊原温泉全体の利用客数 | 榊原温泉全体を対象とした事業であることから、榊原温泉全体の利用客数を指標とするものです。 | 400,000人 | 320,210人 | | 榊原温泉全体での入込客が減少する中、PR不足等による自然歩道の知名度の低さなどの要因により年々減少傾向にある。 | 2 | 観光資源である東海自然歩道、榊原自然歩道及びふるさと公園の適切な維持管理を行った。自然歩道の魅力や楽しみ方等のPRが不足している。 | 現状維持 | 地元団体と連携し、榊原温泉をPRしていくと同時に、自然歩道の魅力や楽しみ方等の情報をPRし、他の事業との相乗効果により目標値を達成していく。 |
| 久居・地域振興課 | 地域インフラ維持事業 | 住民生活に密着した地域要望等に即答・即応するため、道路、河川及び交通安全施設等、地域インフラの維持修繕に対し、総合支所長の権限でフレキシブルに即時対応することを目的とする。 | 地域要望の迅速な対応 | 地域要望への対応であることから、数値目標の設定は困難であるため、迅速に地域要望に対応するよう努める。 | | | | 要望をいただいてから、迅速に対応策等、回答するように努め、ほとんどについて達成することができた。また、現地の対応についても、技能員作業との仕分、及び効率の良い発注に努め、迅速に対応することが出来ました。残った課題としては、要望が非常に多いため、これらに迅速に対応するには、予算及び人員の更なる拡充が必要である。 | 4 | 地域からの要望について、概ね対応できた。 | 拡充・充実 | 地域からの要望については、効率の良い発注、及び技能員作業との仕分けを行ったことにより概ね、即答即応できた。課題としては、南工事事務所と総合支所の役割を再確認し、連携、協力を行うことが必要である。また、要望が非常に多いため、予算及び人員の更なる拡充が必要である。 |
| 久居・地域振興課 | 地域インフラ補修事業（久居総合支所） | 住民生活に密着した地域要望等に即答・即応するため、道路、河川及び交通安全施設等、地域インフラの維持修繕に対し、総合支所長の権限でフレキシブルに即時対応することを目的とする。 | 地域要望の迅速な対応 | 地域要望への対応であることから、数値目標の設定は困難であるため、迅速に地域要望に対応するよう努める。 | | | | 要望をいただいてから、迅速に対応策等、回答するように努め、ほとんどについて達成することができた。また、現地の対応についても、技能員作業との仕分、及び効率の良い発注に努め、迅速に対応することが出来ました。残った課題としては、要望が非常に多いため、これらに迅速に対応するには、予算及び人員の更なる拡充が必要である。 | 4 | 地域からの要望について、概ね対応できた。 | 拡充・充実 | 地域からの要望については、効率の良い発注、及び技能員作業との仕分けを行ったことにより概ね、即答即応できた。課題としては、南工事事務所と総合支所の役割を再確認し、連携、協力を行うことが必要である。また、要望が非常に多いため、予算及び人員の更なる拡充が必要である。 |

久居総合支所

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

| 課等名 | 中事業名 | 事業の目的 | 成果指標（平成28年度） | | | | | 事業の評価 | | 所管課長等による評価 | | |
|----------------|----------------------|--|------------------------|--|---------|---------|----------------------------|---|----|---|-----------------|--|
| | | | 指標名 | 指標設定の考え方 | 目標値 | 実績値 | 数値以外の目標 | 目標に対する実績等の分析 | 評価 | 所見 | 平成29年度以降の事業の方向性 | 所見 |
| 久居・福祉課 | 社会福祉事務所管理運営事業 | 久居総合支所福祉課における事務及び予算等の調整、久居地域の福祉事業の施行事務及び市単独事業の調整を行うことにより、効率的な事務執行及び円滑な事業の推進を図ります。 | 効率的な事務執行 | 事務事業の効率的な執行がコスト削減につながるため、上記の指標にするものです。 | | | 効率的かつ合理的な事務の執行による福祉課の円滑な運営 | 福祉課の円滑な運営ができました。 | 4 | 久居総合支所福祉課における事務及び予算等の調整、執行を適正に行い、効率的な事務執行及び円滑な事業の推進ができた。 | 現状維持 | 事務及び予算等の調整、執行を適正に行うことにより、更なる効率的な事務執行及び円滑な事業推進を図る。 |
| 久居・福祉課 | 社会福祉施設維持管理事業 | 津市久居総合福祉会館の維持管理運営事業 市民の福祉、文化教養及び体力の増進を図ることにより、健康で文化的な市民生活に寄与します。 ・コミュニティ活動の場を提供する事業 ・地域福祉活動及びボランティア活動事業 ・教養の向上及びレクリエーションに係る事業 | 施設の利用者数 | 施設の管理運営についての成果は、多くの市民が利用していただき施設の設置目的である健康で文化的な市民生活に寄与することにあるため、当該施設の利用者数を指標とするものです。 | 85,000人 | 85,731人 | | 目標値に達しており、当初の目的を達成できました。今後も市民の福祉、文化教養及び体力の増進を図るため、施設の整備等の充実を行っていきます。 | 4 | コミュニティ活動の場としての役割を果たしており、利用者の福祉、文化教養及び体力の増進を図るための事業推進ができた。 | 現状維持 | 引き続き効率的な施設の管理運営を行うとともに、老朽化による施設等の修繕を行いながら、利用者の快適環境の整備に努め、健康で文化的な市民生活に寄与する。 |
| 久居・生活課 | 会館、市民センター管理運営事業 | 立成コミュニティセンターについては、地域の自主的な活動を育成し、他地域との交流を図るとともに、地域のコミュニケーションの核となる施設として、様々な集会、会議等に利用することにより、文化の向上及び生涯学習の振興を図り、地域コミュニティの充実につなげていく。 | 利用件数 | 文化の向上及び生涯学習の振興を図り、地域社会の発展に寄与する施設であるため、利用件数を指標とします。 | 80件 | 60件 | | 各種団体の利用回数は目標値を下回ったものの、自治会をはじめとする地域の各種団体数は前年並みであることから、コミュニティ活動としては有益である。 | 3 | 目標値を下回ってはいるものの、当該施設が立成公民館との併設であることも踏まえ、地域のコミュニケーションの核となる施設としての機能を十分に発揮できていると評価できる。 | 現状維持 | 地域のコミュニケーションの核となる施設としての機能を十分に発揮しているが、収容能力により手狭に感じられることもあることから、これ以上の拡充は難しく現状維持としたい。 |
| ポルタひさいふれあいセンター | ポルタひさいふれあいセンター管理運営事業 | 休日・夜間の開所をすることにより、戸籍・住民票等の交付、市公共料金の収納を行い、市民の利便性の向上を図り、住みよい街づくりに貢献します。当センターにおいて行う貸館事業は、市民の交流、情報共有の場、ふれあいの場、健康増進の場を提供することが主眼であり、このことにより地域の振興を図ることを目的とします。 | 窓口における取扱件数と施設の利用件数の合計数 | 市民サービスの窓口としての施設であるため、窓口取扱件数と施設の利用件数の合計数を利用者の満足度(利便性)の指標とします。 | 35,000件 | 33,227件 | | 目標を若干下回りましたが、概ね昨年並みの数値を維持できました。来庁者、利用者の方には満足いただけているものと思います。 | 4 | 平成27年1月、久居庁舎がポルタひさいへ移転したことに伴い、収納業務を除く窓口業務は減少したものの、休日・夜間の市民サービスの窓口として、戸籍・住民基本台帳等の交付事務、市税等の収納を行い、市民生活の利便性に供しています。また、貸館業務を通して、地域住民の交流と親睦に寄与している。 | 現状維持 | 休日・夜間の各種証明書の交付、住民異動届の受付等窓口業務は、今後増加することが予想されることから、業務の効率化、職員の資質向上に努めるとともに、市民サービスの窓口及び貸館業務を通して、市民生活の利便性の向上や地域住民の交流・親睦に寄与していく。 |